

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200055		
法人名	医療法人栄仁会		
事業所名	栄仁会グループホームやまぶきの郷 (Aユニット)		
所在地	宇治市菟道段の上20番1		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2691200055&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2691200055&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年1月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四月より、自治会・消防団に加入し、活動している。 自治会に加入したことにより、地域の情報が多く入り、昨年よりも多く地域の行事に参加できた。 消防団加入後、出勤し、地域に貢献した。 生花・お茶・傾聴ボランティア・ドッグセラピー・音楽レクなど、ボランティア回数も増え、オープンな施設になりつつある。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>緑豊かな見晴らしの良い場所に建つ当該事業所は、地域の住宅地から少し離れていますが、自治会や消防団にも加入する事で地域の情報を得、地域の人と行動を共にしながら繋がりを深め、設立3年目で理念に掲げる「地域に根ざしたサービス提供」を実現しつつあります。ボランティア募集のチラシは多くの人の目にふれる様に公共施設に置いてもらう事で成果をあげ、現在生花・茶道・楽器演奏など多種多様な活動を、利用者の趣味や生活の活性化に繋げています。事業所では家族もチームの一員と位置付け、アンケートを取ったり意見聞く機会を大切にしています。行事に家族の参加の声かけを行ったり、利用者や職員と共に行う掃除には家族も率先して参加があるなど、人との関わりが事業所の活気を生み出しています。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に、理念を掲示し、常に、その人らしさを考え、ケアするように努力している。	一人ひとりがその人らしく地域に根ざしたサービス提供を理念に掲げ、日々利用者を支援しています。職員は日常のケアの中で迷いが生じた時、必ず理念に立ち返りその人らしいケアになっているかなど明日のケアへと繋げています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	菟道地区の夏祭り、花笠巡行に参加した。地域住民にお声かけし、やまぶきの郷秋祭りに参加して頂いた。消防団に入団した。保育園との交流も計画中である。	自分たちは入れるかという地元住民の声をうけ地域住民枠を空けるなど、自治会との信頼関係の構築に努めています。自治会に加入する事で土石流の場所など重要な情報を得る事ができ、地域の行事への参加も増え事業所の秋祭りに参加してもらうなど交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に、小規模多機能を中心として相談はあるが、グループホームに直接の依頼はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、小規模多機能型居宅介護と合同で行い、その場で出される意見は必要に応じてスタッフ間でも話し合い、ケアに反映させている。自治会に加入したこともあり、地域の自治会長からの細かな地域の情報を提供して頂けるようになった。	運営推進会議は利用者、家族、自治会長、第三者委員、地域包括支援センター職員の参加を得、2ヶ月に1回開催しています。ホームの現状や計画の取り組みや寄せられている苦情などを報告し、地域の行事や独居所帯数など地域の現状が話されたり、ボランティアの情報提供など多彩な議題で運営推進会議が運営されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員派遣事業を受けており、終わりに総括をし、内容を職員に伝達している。介護相談員報告書を皆で振り返りをし、ケアに活かす努力をしている。介護相談員に、秋祭りに参加して頂き、いつもと違う雰囲気を感じて頂けた。	市の担当とは必要時に相談をしたり要望を出しています。介護相談員の相談係の立ち上げや、運営推進会議への参加が叶うなど事業所理解に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、全職員に対して、周知徹底を行っている。今まで拘束を行ったことはない。全体会議で人権尊重や虐待についての話し合いや研修を行っている。	全職員が研修会に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。事業所の玄関は開錠し、拘束と認識せずにケアを行っている職員には何故拘束にあたるかなど説明し、理解を深めるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを定め、職員が閲覧できるようにしている。年間研修項目に、虐待を挙げ、虐待の学びを深めている。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会を行い、職員全体の理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、契約後も必要に応じて契約時の内容を繰り返し、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アウトカム評価を実施し、その評価についての話し合いを行い、改善にとり組んでいる。 ささいなことでも、ご意見として捉え、書面に記録として残している。	年に一度アンケートを取ったり、多くの家族の参加がある行事時や来訪時も含めて家族の要望を聞いています。苦情や要望は必ず職員間で検討し運営推進会議や家族会で報告しており、意見の中で職員の顔をやまぶき新聞に載せたり、職員と話しやすい環境を作るなど運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議以外でも、その場で思いを伝え合える。	月1回の全体会議や週1回のミーティングで意見を出す機会を設け、職員が何でも言える雰囲気大切にしています。職員がケアの中で悩みを抱えた時は、仲間に相談しやすいよう個人の問題ではなく組織全体のものとして捉えるよう配慮がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者・施設長も面接を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが個々に目標を定め、その目標に添った研修に参加できるよう割り振っている。 外部研修を受けた者は伝達研修を行っているが、実践に活かすことが課題である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部事業所全体の教育委員会が組織されている。新任研修では他部門との交流を深められた。 ほぼ毎月外部研修に参加し、同業者との交流は図っている		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを活用しているが、ご本人の状態に応じた見直しの徹底、モニタリングが今後の課題である		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をしっかり聴き、困っていること、不安なこと、求めていることを受け止める努力をしている。家族もチームの一員と認識し、定期的に、入所後も家族と話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、入居申し込みされている方が15名おられる。運営規程に地域の方優先をうたっているため、エリア外の方等は他GHを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や掃除などについては出来るだけ手伝って頂き、共に生活を行っているという意識を持ってもらうように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を行った。家族もケアの一員として、チームに加わっている。家族との連絡を密に行うようになっていく(細かなことでも相談する)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで住まれていた場所にドライブに行き、当時の暮らしや家族との思い出を楽しんで頂いている	利用者が以前加入していた老人会への参加を引き続き支援したり、友人の面会時には一緒にお茶会に参加してもらうなど交流を大切にしています。喫茶店や美容院、昔住んでいた家など利用者の思いにそってケアプランに組み入れるなど、これまでの関係が途切れないよう支援しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分のユニットだけではなく、隣のユニットや小規模との交流を図り、孤立せず馴染みの方を作って頂けるよう支援している		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、次の生活を一番に考えるようにして、退所後も、それぞれの機関への問い合わせや、時には面会を行っている。病院入院という退所が多く、死亡に至ったケースが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前に増して、カンファレンスの機会を多く持ち、一人ひとりのニーズの把握に努めている	センター方式のアセスメントを用いて、家族に生活歴や趣味など記録し、活用する事で利用者の思いや意向の把握に繋がっています。意思表示が困難な方には、記録などを基に職員同士で情報を共有し、検討を重ね意向の把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートの活用により、生活歴や馴染みの暮らし方等、細かく情報収集し、共通理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランが絵に描いた餅にならない様見直しを行い、今の状態にあったプランになっているか常に意識している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式シートを受け持ちだけで話し合うのではなく、複数で意見を出し合い仕上げるように改善してきている	介護計画は3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回更新しています。サービス担当会議には出来る限り利用者や家族に参加を依頼し、ケアの情報や提案を提示し検討を行い、利用者主体の介護計画となるよう努めています。利用者に変化がある時は随時見直しをおこない、医療的な部分については往診時の記録を基に計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・これまで活用しきれなかったセンター方式のシートが活用できるようになってきた(A3シート) ・主に受け持ちの記録がしっかり出来ているか月ごとに平均を出し、常に意識するようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、やまぶきの郷全体のサービスを活用している。たとえば、小規模に遊びに行ったり、小規模と一緒にドライブに行ったりしている。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア募集のチラシを公的機関や学校に持参しボランティアを呼びかけた ・ペットボトルのフタや古切手のリサイクル活動、東日本大震災の募金を行い社協へご利用者と一緒に寄付に行った		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時、日勤リーダーや受け持ちが同席し医療に頼り過ぎないケアに努めている。また、観察のポイントを医師に指導してもらっている	契約時にはかかりつけ医の継続を家族に問い、今までのかかりつけ医を継続される場合は往診を依頼し、医師と連携しながら利用者を支援しています。法人の協力医による月2回の往診があり、看護職員による健康管理を行い、利用者・家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員にも出来る医療行為の研修を継続している。 看護師専用の勤務表を作成し、看護師在駐を徹底し、利用者や家族の安心につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設から3年経ち、介護度も上がり入退院が増えたが、その都度、家族、医療機関、看護師、受け持ち、ケアマネと話し合いの場を設け、より良いケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの研修を行っている。また、家族にも延命処置の有無の確認を行い、終末期や急変時の対応についての意識の共有を行っている。終末期の方の家族には、看取りに対する同意書へ記入頂いている。	事業所は昨年初めての看取りを経験しています。契約時に伝えた法人の看取り指針に基づき、重度化のなかで医師を交えた家族との話し合いを重ね、思いに沿うように努めています。全職員が何度も研修を行いケアの方法を学び家族に納得してもらえる看取り支援となるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームでの全体会議の中で、講師を職員で順番に決め、実践力を身に付けられるように努力している。マニュアル完備		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1回以上、避難訓練を行っている。消防団に加入し、出動1回、訓練にも参加している。小規模スタッフ、グループホームスタッフも共に人数の把握が出来るよう確認表に記入している。	避難訓練は消防署立ち会いのもとに2ヶ月に1回実施し、利用者の習熟がなされています。時々状況の設定を行い、夜間を想定や自治会長や職員は自宅から何分で来れるか、消防車は通報からどれ位で到着するかなどを確認しています。隣近所の無い中ですが、自衛消防団の訓練に職員が参加するなど協力関係に向けた努力を重ねられています。	

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	うつ症状のあるご利用者がおられるにも関わらずリビングで大きな声で対応していた時があり、配慮に欠けていたことがあった	職員の知識や認識の大切さを意識し、新人研修はじめ全職員が常に勉強会などで、人格を尊重しプライバシーに配慮した声かけが出来るよう確認し合っています。声の大きさに気をつけたり、トイレ誘導などには周囲に気付かれないように誘うなど配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	開かれた質問をすることにより本人の思いや希望を聞きだす努力を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や昼寝の有無、日中の過ごし方等、個別に対応している。言葉で伝えることが出来ない方には、身体状態を見ながら、その人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択はなるべくご利用者にして頂いている。化粧をする習慣があった方には、慣れた化粧品を持参して頂き化粧をしてもらっている。時々職員もお手伝いをさせて頂き、今の時代の化粧も楽しんで頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせて楽しい献立を工夫している。利用者と職員でテーブル拭きや食器の片付けをしている。食事作りは主に職員が行っているが簡単な作業(筋取りや皮むき、味見等)をして頂き食事作りに関わって頂いている。また、ご家族様と一緒に食事をして頂いている。	利用者にテーブル拭き、野菜の皮むき、味見、片付けなど手伝ってもらい、職員と共に食事作りをしています。旬の美味しいものや利用者の好みを聞き献立に反映しています。毎週家族が来てくれる利用者には一緒に食事ができるようにし、外食も個別レクリエーションと位置付け、全員が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立表の書式を変え、バランスの良い食事作りを心がけている(主食、副食、おたのしみ)、また介護食の利用なども行っている ・調理衛生チェック表をつけ、衛生管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し、口腔ケアの仕方を学び、実践している		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間ポータブルトイレを使用してたがトイレのタイミングが合わせられるようになり、トイレ誘導での排泄が可能になった	一人ひとりの排泄リズムを把握し誘導することで失敗を無くすように努めています。紙パンツから布パンツに移行した結果、はき心地が良い事で更に自立に向かった利用者もいます。入居前の習慣を参考に牛乳を飲むことで排便がスムーズになるなど、利用者に合わせて支援を工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトに訪問販売に来てもらい、ご利用者に好きな種類を選んで飲んで頂いている。朝、便秘気味の方には飲むヨーグルトを飲んで頂き、オリゴ糖も料理等に入れ、なるべく食べ物で便が出るよう努力している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴に関しては、曜日を決めているが、本人の状態に合わせて、臨機応変に入っている。 ・入浴の出来ない人に対しては手浴・足浴を実施 ・季節湯をしてる(ゆず、アロマ)	入浴日は決めています、臨機応変に対応しています。入浴はひとりずつ浴槽を洗い湯を入れ替えゆっくりと入浴できるよう配慮しています。拒否のみられる利用者も入浴できるよう状態に合わせた支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて、D-3シートを活用し、睡眠時間を把握している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のミス減らす為に、与薬時に三回呼称するように徹底している。それにより、与薬ミスが減少した。 往診時に職員が立会い、医師より説明を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お弁当を買うときはご利用者もお連れし、好きな物を選んで頂いている 調理、食器洗い、洗濯物たたみなど一人ひとりに合った仕事をして頂いている。また、気分転換や楽しみの一つとして、外食や、喫茶店にも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ドライブの際、昔住んでいた馴染みある場所を訪れ懐かしんで頂いている ・個別で喫茶店に行ったり、地域の納涼祭に家族と一緒に出向いたり、花笠祭り、文化祭にも参加している	事業所の前には利用者がいつでも玄関を出て座れるようにベンチを置いています。季節ごとの行事で花見やドライブ、家族との外食、地域の祭りなどの行事に参加するなどあらゆる機会をとらえ、利用者と共に参加できるよう支援しています。	

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、お小遣いを持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは、事務所の電話を使用し、かけて頂いている。手紙に関しては代筆の希望がある際は代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月2回のボランティア(生花)により四季折々の生花を楽しんでいる。 職員も家から四季の植物を持参し、やまぶきの郷に居ながらも季節を感じられるように工夫している	玄関と居間にはボランティアと利用者が生けた生花を飾っています。各ユニットから見える中庭を活用し、夏はゴーヤを植え調理に使用したり、秋は紅葉を楽しみ、バーベキューなどもしています。食後居間では利用者どうし和気あいあいと雑談しています。リビング横には和室を設け休養が必要となった場合にも使用できます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にご利用者を招いて、仲の良いもの同士過ごされていることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っておられた馴染みのテーブルと椅子を居室に入れられ、毎週家族様と昼食をとられる方もおられる。	各居室にはベッドと鏡のある洗面台が備えられています。利用者が長年大切にしてきた物を飾り、使い慣れたタンスや整理かごなどで自分の部屋らしくしています。ドアの外は表札ではなく好きなぬいぐるみやカードを掛け、自室が分かりやすいようにし、掛け金具には赤いシールを貼ることで非常時の避難には支援が必要である事を知らせています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベランダに出やすいようにスロープを取り付け、安全に出入りできる工夫をしている		